



令和4年度第1回企画展

身の回りの生活史 12

# お皿いろいろ

展示期間

令和4年7月16日(土)～10月23日(日)

期間中の休館日

7月19・25日

8月1・8・12・15・22・29日

9月5・12・20・26～30日

10月3・11・17日

開館時間

9:30～16:30



## ごあいさつ

人が生きていく上で基本的に必要なものとして、「衣服・食物・住居（衣食住）」が挙げられます。衣食住にかかわるものは、人類の長い歴史において様々に工夫され、現在の私たちの生活はバリエーションに富んだ豊かなものとなっています。

衣食住の中で、「食」は生命を維持し、活動的に過ごす上でも特に重要です。そのため、食物を食べるための調理法の工夫だけでなく、調理した食品を盛り付ける食器に対しても様々な工夫が重ねられ、料理に合わせていろいろな形の食器が使われています。

また、食器は食事の道具の一つですが、機械などの発達によって規格品を大量生産できるようになると、商店などの宣伝用ノベルティグッズという作られ方もするようになりました。大切に使用すれば長期間使える食器は、長い宣伝効果が見込めるものでした。

郷土資料館には、古くは縄文時代の人々が使っていた食器から、ともすれば、今もどこかの家庭では現役で使われている食器まで収蔵されています。

今回の企画展では、こうした食器の中から「お皿」に注目をし、発掘で見つかった縄文時代や古墳時代の器を参考展示とし、同じく発掘出土品である中・近世のお皿や、寄贈を受けた現代のお皿などを紹介します。材質や形状の変化に注目していただくとともに、お皿が持つ役割の変遷にも目を向けていただければ幸甚です。

最後に、今回展示させていただきました貴重な資料をご寄贈くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

令和4年7月

宮代町郷土資料館

### ～ 凡 例 ～

1. 本書は、令和4年7月16日（土）から10月23日（日）まで開催される、宮代町郷土資料館 令和4年度第1回企画展「身の回りの生活史 12 お皿いろいろ」の展示図録です。
2. 展示開催期間中の休館日は次の通りです。  
7月19・25日、8月1・8・12・15・22・29日、9月5・12・20・26～30日、10月3・11・17日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆、デザイン、編集等は、当館学芸員 横内美穂が担当しました。
4. 会場及び本書中の敬称は省略いたしました。
5. 掲載した資料が展示した資料のすべてではありません。また、掲載した写真の縮尺は任意のものです。
6. 図録中、「第〇〇集」とあるのは「宮代町文化財調査報告書第〇〇集」の省略です。
7. 資料提供・協力者一覧（五十音順・敬称略）  
青木秀雄・岩崎克己・金子和生・小島雅郎・関根文雄・吉岡勇一郎

## 発掘されたお皿いろいろ

宮代町は大宮台地の東側周辺部にあり、これまで行われた発掘調査において、約2万年前から人々が暮らしていた痕跡が確認されています。

旧石器時代においては、狩りやモノの加工に使われたと考えられる道具は見つっていますが、食事の際の皿として使われた道具は見つかりません。これは、当時は狩猟を中心とした生活であって移動が多かったことや、まだ土器を作る技術が無く、大きな葉や植物の繊維を編んだものなどが使われていたためと思われます。

土器を作るようになった縄文時代以降も、日用品としては木製品も多く使われていたと考えられます。そのため、宮代町域で行われる発掘によって、お皿として使われていたと考えられるものもあまり見つかりません。

室町時代以降になると、特に館跡から中国産の青磁皿や瀬戸美濃産等のお皿が発掘で出土していて、このあたりでも使われていたことがわかります。

このコーナーでは、これまで宮代町域で行われた発掘で見つかったものの中から、お皿の用途やそれに類する使い方をされたと考えられるものをご紹介します。



堀之内式土器 碗形小型

縄文時代後期（約3,700年前）  
第16集 金原遺跡



坏（土師器）

古墳時代（6世紀後半）  
第23集 道仏遺跡



高台坏

平安時代（10世紀）  
第18集 山崎遺跡



中国産青磁皿

16 世紀

第 14 集 伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡遺跡



瀬戸美濃産志野皿

16 世紀終末

第 14 集 伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡遺跡



瀬戸美濃産志野鉄絵皿

17 世紀

第 24 集 地藏院遺跡 (第 1 次)



瀬戸美濃産灰釉丸皿

17 世紀

第 24 集 地藏院遺跡 (第 1 次)



肥前唐津産大皿

17 世紀後半

第 17 集 地藏院遺跡



肥前伊万里産中皿

17 世紀後半

第 17 集 地藏院遺跡

## 江戸時代のお皿いろいろ

江戸時代になると都市部を中心に物の流通が盛んになりました。中世に比べると器種のバリエーションも増えて陶磁器が生活用具として浸透していき、多く使われるようになりました。そして、江戸時代の中期になると、次第に農村分においても陶磁器が普及していき、一般的な日用品として重宝されるようになっていきました。

江戸時代の後期になると、成形や絵付け、焼き締めといった陶磁器を作る技術が発達し、さまざまな商品が作られるようになります。また、大皿などが一般の庶民でも使われるようになりました。こうした陶磁器の食器類が近年まで家庭で大切に使われていたり、蔵や物置などに保管されてきたりしていました。

しかし、日用品としての陶磁器は使えば使うほど破損の機会も増えるため、よく使われていたと思われる器種ほど、残されている数は多くないようです。



染付二鶴図八角皿

江戸時代  
小島氏寄贈



染付雲竜兎鴨飛蝶唐草文大皿

江戸時代  
金子氏寄贈



染付二鹿遊山図中皿

江戸時代  
小島氏寄贈

## 明治～大正時代のお皿いろいろ

江戸から明治になり、海外の技術が導入されるようになると、陶磁器の生産方法も大きく変化し、工業品としての近代化が図られました。特に西洋の酸化コバルトやクロムなどの顔料が使われるようになり、それまでは専門の職人の手に依った絵付けが、型紙を使ったり印刷された紙から転写したりするなどの、「印判」と呼ばれる技法が活用されるようになりました。

「印判」の技法は江戸時代にもありましたが、発展することなくいったんは衰退しました。明治時代になって技法や素材に工夫がされ、絵付けやその色味にバリエーションを持てるようになりました。

さらに、鉄道輸送網の発達によって日本全国に流通するようになっていったことで、庶民の生活スタイルに大きな変化が起こり、陶磁器を日用食器として多く使用できるようになりました。



印判手染付微塵唐草文大皿

明治～大正時代 金子氏寄贈



印判手二鳳凰飛遊図大皿

明治～大正時代 岩崎氏寄贈



竹に対雀菊梅図深皿

明治～大正時代 岩崎氏寄贈



波紋に松図焼物皿

明治～大正時代 関根氏寄贈

## 昭和時代のお皿いろいろ

昭和時代のお皿は、太平洋戦争以前と終戦後では大きくその様子が変わります。

戦争以前は、明治・大正時代に引き続き、一般的には従来からの手工業による陶磁器を使用していました。

しかし、終戦後はGHQの占領下におかれたことから、生活の様々な面において、特にアメリカ合衆国の影響を強く受けるようになり、同じような生活レベルを送れるようになることが、戦後の日本人にとって目標となりました。

昭和30～48年頃の高度経済成長期は、敗戦からの復興を合言葉に人々が努力した結果と、世界的な状況からの好景気が重なって、特に工業が発展した時期となります。いろいろなものが工場生産されるようになり、工業化に伴う量と質の安定化が図られ、コストダウンが進みました。それは日用品としての食器においても同様で、工場により安価で品質の安定したものが作られるようになると一層の普及を促すこととなり、普及に伴って日用品として頻繁に使用される食器が、広告アイテムとして注目されるようになります。

会社や商店の名称や、商品名などが入った食器が、ノベルティグッズとして無料で顧客に配られるようになったのも、このころからです。

町域の商店などでも、食器をノベルティグッズとして配っていた事例が多くありました。近年はノベルティグッズとして製作できる商品が多岐にわたるため、一つあたりの重量が重くなってしまいう食器は見かけなくなりました。しかし、配られたものが現役で使われている事例も少なくありません。

ご自宅の食器棚に、もらった食器が収められているご家庭も、まだまだ多いのではないのでしょうか。



烧物皿 3点

昭和時代 岩崎氏寄贈



紅白薔薇図洋風深皿

昭和時代 青木氏寄贈



黄地に梅と紅葉模様平皿

昭和時代 吉岡氏寄贈



竹籠風模様深皿

昭和時代 青木氏寄贈



白地に洋花図平皿

昭和時代 青木氏寄贈



白地に南瓜図深皿

昭和時代 青木氏寄贈



白磁に竹模様平皿 (左:表 右:裏)

昭和時代 青木氏寄贈



白地に金縁楕円形スープ皿 (裏)

昭和時代 青木氏寄贈



白地に笹図深皿

(上：表 下：裏)

昭和時代  
関根氏寄贈



白地に白梅図平皿

昭和時代 青木氏寄贈



白地に金色洋風唐草文中皿

(左：表 右：裏)

昭和時代 青木氏寄贈



白地に青縁透かし葉柄中皿

(左：表 右：裏)

昭和時代  
青木氏寄贈



薊模様醤油皿

昭和時代 青木氏寄贈



# 展示資料一覽

	資料名	年代	備考
1	黒浜式土器 浅鉢	縄文時代前期中葉(約5,200年前)	宮代町文化財調査報告書第20集 H18・19 道仏北遺跡 第64 図8
2	諸磯式土器 浅鉢	縄文時代前期後半(約4,500年前)	宮代町文化財調査報告書第20集 H18・19 道仏北遺跡 第65 図8
3	堀之内式土器 碗形小型	縄文時代後期(約3,700年前)	宮代町文化財調査報告書第16集 H9 金原遺跡 第187 図3
4	堀之内2式土器 浅鉢	縄文時代後期(約3,600年前)	宮代町文化財調査報告書第18集 H18・19 山崎遺跡 第59 図4
5	加曾利B式土器 浅鉢	縄文時代後期(約3,500年)	宮代町文化財調査報告書第1集 S55 前原遺跡 第73 図3
6	坏(土師器)	古墳時代(6世紀後半)	宮代町文化財調査報告書第23集 道仏遺跡 第121 図11
7	坏(土師器)	古墳時代(5世紀末～6世紀初め)	宮代町文化財調査報告書第23集 道仏遺跡 第59 図9
8	高坏	古墳時代(5世紀末～7世紀初め)	宮代町文化財調査報告書第23集 道仏遺跡 第72 図27
9	坏(土師器)	古墳時代(6世紀後半)	宮代町文化財調査報告書第23集 道仏遺跡 第191 図16
10	高坏	古墳時代(5世紀後半)	宮代町文化財調査報告書第23集 道仏遺跡 第59 図10
11	高台坏(須恵器)	平安時代(10世紀)	宮代町文化財調査報告書第18集 山崎遺跡 第16 図3
12	中国産青磁皿	戦国時代(16世紀)	宮代町文化財調査報告書第14集 伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡 第70 図1
13	瀬戸美濃産志野皿	安土桃山時代(16世紀終末)	宮代町文化財調査報告書第14集 伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡 第26 図5
14	瀬戸美濃産緑釉小皿	戦国時代(15世紀終末)	宮代町文化財調査報告書第17集 地蔵院遺跡 第83 図1
15	瀬戸美濃産卸皿	室町時代(15世紀中頃)	宮代町文化財調査報告書第14集 伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡 第41 図6
16	中国産白磁皿	戦国時代(15世紀終末～16世紀)	宮代町文化財調査報告書第11集 伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡 第32 図9
17	瀬戸美濃産鉄絵皿	17世紀	宮代町文化財調査報告書第24集 地蔵院遺跡(第1次) 第198 図22
18	瀬戸美濃産志野鉄絵皿	17世紀	宮代町文化財調査報告書第24集 地蔵院遺跡(第1次) 第198 図21
19	瀬戸美濃産灰釉丸皿	17世紀	宮代町文化財調査報告書第24集 地蔵院遺跡(第1次) 第198 図20
20	瀬戸美濃産丸皿	17世紀	宮代町文化財調査報告書第24集 地蔵院遺跡(第1次) 第198 図29
21	肥前唐津産大皿	17世紀後半	宮代町文化財調査報告書第17集 地蔵院遺跡 第77 図12
22	肥前伊万里産磁器中皿	17世紀後半	宮代町文化財調査報告書第17集 地蔵院遺跡 第67 図13

23	肥前伊万里産中皿	17世紀後半	宮代町文化財調査報告書第17集 地藏院遺跡 第78図1
24	肥前伊万里産磁器小皿	18世紀前半	宮代町文化財調査報告書第17集 地藏院遺跡 第67図12
25	肥前伊万里産磁器中皿	17世紀後半	宮代町文化財調査報告書第17集 地藏院遺跡 第67図14
26	染付二鶴図八角皿	江戸時代	小島氏寄贈
27	染付雲竜兎鴨飛蝶唐草文大皿	江戸時代	金子氏寄贈
28	染付二鹿遊山図中皿	江戸時代	小島氏寄贈
29	印判手染付微塵唐草文大皿	明治～大正時代	金子氏寄贈
30	印判手二鳳凰飛遊図大皿	明治～大正時代	岩崎氏寄贈
31	染付微塵唐草文なます皿	明治～大正時代	小島氏寄贈
32	竹に対雀菊梅図深皿	明治～大正時代	岩崎氏寄贈
33	波紋に松図焼物皿	明治～大正時代	関根氏寄贈
34	海老図醤油皿	昭和時代	岩崎氏寄贈
35	竹節重ね模様焼物皿	昭和時代	岩崎氏寄贈
36	梅花に格子模様焼物皿	昭和時代	岩崎氏寄贈
37	市松網代に海老模様焼物皿	昭和時代	岩崎氏寄贈
38	紅白薔薇図洋風深皿	昭和時代	青木氏寄贈
39	黄地に梅と紅葉模様平皿	昭和時代	吉岡氏寄贈
40	竹籠風模様深皿	昭和時代	青木氏寄贈
41	白地に洋花図平皿	昭和時代	青木氏寄贈
42	桔梗模様入り井	昭和時代	青木氏寄贈
43	白地に南瓜図深皿	昭和時代	青木氏寄贈
44	白磁に竹模様平皿	昭和時代	青木氏寄贈
45	白地に金縁楕円形スープ皿	昭和時代	青木氏寄贈
46	白地に笹図深皿	昭和時代	青木氏寄贈
47	白地に金色洋風唐草文中皿	昭和時代	青木氏寄贈
48	白地に白梅図平皿	昭和時代	青木氏寄贈
49	印判手白花赤絵染付膾皿	昭和時代	岩崎氏寄贈
50	白地に青縁透かし葉柄中皿	昭和時代	青木氏寄贈
51	薊模様醤油皿	昭和時代	青木氏寄贈
52	印判手赤花赤絵染付膾皿	昭和時代	岩崎氏寄贈



印判手白花赤絵染付膾皿

昭和時代  
岩崎氏寄贈



印判手赤花赤絵染付膾皿

昭和時代  
岩崎氏寄贈

### 「宮代町」に関する資料を探しています！

今回の展示では、ノベルティグッズとして作られた食器について、展示することができたものの地域が偏っています。これは、資料館に収蔵されているものが偏っているからです。

郷土資料館では、宮代町に関係する資料はできるだけ収集するようにしていますが、その対象となるものは様々で、すべてを把握しきれいていません。

資料館が探しているものは、地域の商店などで作られた名入りのグッズや、町内の小中学校での部活のユニフォームや大会成績の記念品、あるいは町域で撮影された写真やアルバム、8mmフィルムなどで、収蔵したい資料の例を挙げていけば皆さんにとっては「え？こんなものも??」と思うようなものがあるかもしれません。それが消耗品であるほど、資料として収集することが難しくなります。

郷土資料館の収蔵品は、有志の方からの寄贈に頼っています。断舍利などで廃棄される前に一言、資料館にお声掛けいただけるとうれしいです。

宮代町郷土資料館

〒345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

TEL 0480-34-8882 FAX 0480-32-5601

Email [museum@town.miyashiro.saitama.jp](mailto:museum@town.miyashiro.saitama.jp)